

技術・家庭科(家庭分野) 第1学年 題材指導計画

題材名 『ガイダンス』～自分を振り返ろう～ A(1)ア		題材の目標 小学校の家庭科の学習と自分の成長を振り返るとともに、これからの学習内容を把握し、3年間の学習の見通しを持つ。				予定時数	実施時数	
						1		
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動,ICT活用,地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	○ガイダンス～自分を振り返ろう～ ・自分の成長と小学校の家庭科で学んだことを振り返る。 ・3年間で学習する内容について見通しを持つ。	・小学校の学習を振り返らせ、3年間の見通しを持たせる。 ・自分の成長や生活は、周囲の人々に支えられてきたことに気付かせる。	・調理実習の様子や先輩が制作した作品の写真やビデオ ・「私の成長」シート ※3年間の家庭科学習の見通しと学年の最後に家庭科の成長を確認させるワークシート	○				【ICT活用】 ・先輩が制作した作品や実習の写真や様子を写したビデオを視聴させ、中学校の家庭科の学習をイメージさせる。

技術・家庭科(家庭分野) 第1学年 題材指導計画

題材名		題材の目標				予定時数	実施時数	
『自分の家庭科の成長を確認しよう』 ～針・包丁を上手に使用しているかな～ C(3)ア D(2)ア B(3)ア		布を使った物の製作や簡単な調理を通して、小学校で学習した技能を確認するとともにこれからの学習の目標を持つ。				2		
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動,ICT活用,地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	○布を用いた物の製作「ペットボトルのキャップで作る針刺し」 ・並縫い、玉結び、玉どめの技術を使って針刺しを製作する。	・小学校で習得した技術を思い起こさせ、復習しながら製作させる。 ・p.167「小学校の学習を振り返る」で基礎を確認させる。 ・身の回りで不要になった物を使い、生活を豊かにする工夫をしようとする態度を持たせる。 ・被服室の使い方やきまり等を示す。	・針刺しの作り方プリント ・p.167「小学校の学習を振り返る」	○ *C *D		○ *C	【ICT活用】 ・デジタルコンテンツで並み縫い・玉結び・玉どめの仕方を示す。	
2	○簡単な調理「いももち」 ・じゃがいもの皮を包丁でむき、加熱し、いももちを作る。	・包丁の使い方を思い起こさせ、復習しながら皮をむかせる。 ・時間内にできるように、いもの切り方(厚さ)などを工夫させる。 ・ゆでる以外に電子レンジを使うなど工夫させる。 ・調理室の使い方やきまり等を示す。	・調理器具一式 ・電子レンジ・シリコンスチーマー等を使用するなど工夫	○ *B		○ *B	【ICT活用】 ・デジタルコンテンツで包丁の使い方や調理の手順を示す。	

*各内容の観点で評価する。

技術・家庭科(家庭分野) 第1学年 題材指導計画

題材名 『わたしの成長と家族, 家族・家庭と地域』 A(1)ア (2)アイ		題材の目標 自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて考え, 家庭と家族の基本的機能や地域の関わりについて理解する。				予定時数	実施時数	
						4		
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動, ICT活用, 地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	1 わたしの成長とわたしを支えてくれた家族や周囲の人びと ・成長を支えてくれた家族や周囲の人々とのつながりの大切さについて, 事例を基に考える。	・乙武さんや辻さんの例を基に, 自分の成長を支えてくれた人たちがいることに気付かせる。 ・それぞれの家庭環境に配慮する。	・ワークシート	○				【ICT活用】 ・教科書で取り上げている辻井さんの演奏と話している様子をビデオで写す。
2	2 家庭のはたらき ・家庭での活動を取り上げ, 家庭ではたらきについてまとめる。 ・家事の担い手についての話し合いを通して, 家族との関わりについて考える。	・家庭や家族の基本的な機能について理解させる。 ・いろいろな家族の例を示し, 家事の担い手について話し合わせる。	・教科書P.23「家事の担い手はだれ」		○		○	【言語活動】 ・家事の担い手について, 教科書のデータを基に気付いたことを話し合い, 家族との関わりについての自分の考えを伝え合わせる。
3	3 家庭生活を支える仕事 ・家庭の仕事についてまとめる。 ・事例を基に家族関係をより良くするための方法について考える。	・自分や家族の生活は家庭内外での活動に支えられていることに気付かせる。 ・自分と家族との関わりに関心を持ち, 自分の生活や事例の家族についての課題を見付け, 関係をより良くするための方法を考えさせる。	・いろいろな家族の生活事例 ・ワークシート			○		【言語活動】 ・事例を基に家族の関係をよりよくするため方法についての自分の考えを伝え合わせる。
4	4 わたしたちの家庭生活と地域 ・地域の行事や活動を調査し, 地域の人とのつながりを考える。	・家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成立していることを理解させる。 ・中学生が参加している地域の活動例を上げ, 地域のために関わろうとする意欲を持たせる。	・地域行事の一例 ・地域の中で活動する中学生の写真等	○			○	【地域の特性】 ・仙台や宮城の行事や活動を取り上げる。

技術・家庭科（家庭分野）第1学年 題材指導計画

題材名 『健康と食生活』 B(1)ア (2)アイ		題材の目標 自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康に良い食習慣について考える。食品に含まれる栄養素の種類とはたらきを理解し、中学生の1日分の献立を考える。			予定時数	実施時数		
					5			
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動, ICT活用, 地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	1 食事について考える ・「食べる」とはどのようなことか話し合う。 ・食事の役割や健康に良い食習慣についてまとめる。 ・これからの学習の見通しを持つ。	・食生活の導入として、宇宙食やダイエット食等の例を取り上げ、自分にとっての「食べる」ということについて見つめさせる。 ・食事の役割や健康に良い食習慣について理解させる。	・宇宙食やダイエット食等の写真等	○			○	
2	2 生活のリズムと食事 ・自分の食生活チェックを行い、課題を見付ける。 ・望ましい食習慣を基に、改善点を考える。	・朝食の必要性について、体温の変化や脳の働きについての資料を示して理解させる。 ・自分の食生活を振り返らせ、課題を見付け、食生活を工夫させる。	・食事による体温変化と脳の働きについての資料 ・ワークシート		○			【ICT活用】 ・中学生の健康と栄養のビデオ（ダイエット・朝食抜き等）で生活事例を挙げる。 ・食事バランスガイド体験ゲームで自分の生活チェックをする。 http://www.glico.co.jp/shokuiku/game/index.htm 【言語活動】 ・自分の生活のリズムと食事の課題・解決策について発表し合わせる。
3	3 栄養素のはたらきと食品 ・栄養素の働きをまとめる。 ・食品を六つの基礎食品群に分類する。	・栄養素の種類と働きについて理解させる。 ・食品成分表と、実物の食品や食品カードを活用し、食品に含まれる栄養を理解させる。	・実物の食品や食品カード（裏面に栄養量が示されているもの）				○	
4	4 中学生に必要な栄養 ・中学生の栄養の特徴を理解し、食品の種類と概量について調べ、まとめる。	・中学生が摂取しなければならない食品の種類と概量について、実際の食品を扱うなど工夫して具体的な分量を理解させる。	・実物の食品や食品模型	○			○	
5	5 食事の計画 ・条件に従い、1日分の献立作成を行う。 ・自分の立てた献立を発表し合う。	・中学生に必要な栄養量を考えながら、1日分の献立を工夫させる。 ・工夫点を中心に発表させ、改善点にも気付かせる。	・料理カード ・献立表		○		○	【言語活動】 ・立てた献立の工夫点を発表し合い、感想を交流させる。

題材名		題材の目標				予定時数	実施時数	
『食事の場を豊かにしよう』 ～手作りの物を生かして～ C(3)ア(1)ウ		布を用いた物の製作を通し、基礎的な縫い方を身に付け、手作りの小物を生かして食事の場を豊かにしようとする。				3		
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動,ICT活用,地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	○布を使った物の製作 「刺し子ふきん・ランチョンマット・箸入れ」 など	・小学校で学習した技術を生かしながら行わせる。 ・衣服の補修につながる縫い方を取り入れて製作させる。	・製作過程ごとの見本 ・基礎縫いの見本					【ICT活用】 ・ビデオでまつり縫い・半返し縫い・なみ縫い・ボタン付けの仕方を示す。
2	・製作手順を知り、見通しを持つ。 ・まつり縫いの仕方を知る。	(まつり縫い・半返し縫い・なみ縫い・ボタン付け等)		○		○		
3	・計画的に製作する。 ・作品の発表をする。	・手作りした物の活用や少しの工夫で、楽しい食事の場をつくることができることに気付かせる。						

題材名 『食品の選択と保存』 B(2)ウ D(1)イ		題材の目標 食品の選び方について関心を持ち、表示や選び方理解し、用途に応じた食品の選択ができる。				予定時数	実施時数	
						4		
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動,ICT活用,地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	1 食品が口に入るまで ・食品が口に入るまでの流れ・購入についてまとめる。 ・これからの学習の見通しを持つ。 2 生鮮食品の選び方 ・生鮮食品の鮮度の見分け方や表示を理解し、食品を選ぶ時の観点をまとめる。	・食品が口に入るまでの流れ・購入について考えさせ関心を持たせる。 ・生鮮食品の良否の見分け方を理解させ、選択するための必要な情報を収集・整理させる。	・生鮮食品の表示の例	○		○*D	○	【地域の特性】 ・仙台や宮城県で取れる生鮮食品を知らせる。
2	3 いろいろな加工食品と表示 ・加工食品の種類と表示について調べる。 ・加工食品に使われているいろいろな食品添加物を知る。 ・食品添加物について考えを発表し合う。	・各自が持ち寄った加工食品の表示を調べ、表示の意味を理解させる。 ・食品添加物の標本を用いて種類と用途を理解させるとともに、自分なりの加工食品の選び方に対する考えを持たせる。	・加工食品のパッケージ ・食品添加物の標本		○		○	【言語活動】 ・食品添加物に対する考えを交流させ、加工食品を選ぶ時の視点につなげる。
3	4 加工食品の選び方 ・加工食品の選択の仕方をまとめる。 ・ハムを例に挙げ、実際に情報の読み取りを行い、観点をまとめる。	・教科書p.212と関連させ、情報の収集と活用の仕方を知らせる。 ・加工食品を選択するための必要な情報を収集・整理させ、観点を持って選ぶことができるようにさせる。				○*D		
4	5 食品の保存の仕方と安全 ・食品の保存の仕方、冷蔵庫の使い方をまとめる。 ・例に挙げた食品の情報の読み取りを実際に行い、選んだ観点と食品の安全に対する考えを発表し合う。	・情報を正確に読み取り、自分なりの観点を持って判断させる。 ・安全に対する自分の考えを持たせるとともに、他の考えから自分の考えを再考させる。	・新聞記事・広告		○			【言語活動】 ・広告を見て、食品の安全に対する考えを交流させる。

*D:技能の観点は、内容Dとして評価する。

題材名 『調理をしよう』 B(3)アイ		題材の目標 日常食や地域の食材を生かした調理を通して、調理に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付け、安全と衛生に留意し、食品や調理器具等の安全管理ができるようにする。				予定時数	実施時数	
						10		
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動,ICT活用,地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	1 調理の基本 ・調理用具の使い方を理解する。 (包丁・計量・加熱器具) ・食品や調理器具の安全と衛生について理解する。	・食品や調理器具の安全と衛生に留意した取り扱いについて理解させる。 (生の食品、ふきん・まな板・包丁等の調理器具)	・実物(計量スプーン・計量カップ・包丁・まな板)				○	
2 3	2 調理計画 ・調理の流れと手順についてまとめる。 「りんごジャムを作ろう」 (加工食品) ・りんごの皮むきの実技テストを行う。 ・りんごや砂糖の計量から、計量器の使い方を確認する。 ・ジャムを作り、出来上がったジャムをクラッカーにのせ、紅茶でティータイムをする。	・効率的な調理の流れ・手順、計量の仕方、調理熱源の扱い方等について理解させる。 ・安全と衛生に配慮して調理することを確認させる。 ・果物の調理上の性質についても考えさせながら実習を行う。 ・加工食品と関連させた実習として行い、いろいろな手作りの加工食品に関心を持たせるようにする。 ・りんごの重量を基に廃棄率について扱い、皮の長さ等の数値を根拠に、皮むきについての評価をさせる。 ・評価規準の見本を基に、グループで相互評価をさせる。 ・短時間でジャムができるよう、少人数のグループを設定する。	・一人1個のりんご ・りんごの皮むきについての評価規準ごとの見本 (A・B・Cの判断基準)		○	○	○	【ICT活用】 ・デジタルコンテンツでりんごの皮むきを示す。
4	3 環境に配慮した食生活 ・食生活におけるエネルギー、水の適切な使い方について考える。 エネルギー消費とCO2排出 水の節約と排水の汚れ	・環境に配慮した生活行動について、調理実習や自分の生活に生かせるように具体的に考えさせる。	・レポート		○		○	【言語活動】 ・環境に配慮した食生活の実践をまとめたレポートについて、発表し合わせる。(家・学校での実践を通して)
5 6 7	4 「芋煮を作ろう」 (野菜と肉の調理：汁物) ・宮城と山形の芋煮の違いを確認する。 ・芋煮の調理の手順をまとめ、調理実習計画表を作成する。 ・班毎に決めた宮城風又は山形風芋煮の調理を行う。	・地域の芋煮の違いについて、材料や調理の手順を中心に理解させる。 ・野菜の調理上の性質を理解させる。 ・いろいろな野菜の切り方を習得させる。 ・肉の調理上の性質と安全な取り扱いを理解させる。	・調理実習計画表 ・調理用具一式 ・野菜切り方見本		○	○	○	【地域の特性】 ・芋煮を比較し、宮城と山形の食文化に触れる。 【ICT活用】 ・デジタルコンテンツで豚汁の基本的な作り方と宮城・山形の芋煮の作り方を示す。
8 9	5 「肉じゃがを作ろう」 (肉といもの調理：煮物) ・肉じゃがの作り方を確認する。 ・じゃがいもの皮むきの実技テストを行う。 ・手順に従い、時間内に効率よく調理する。	・汁物と煮物の調理のポイントについて取り上げる。 ・少人数のグループに設定し、一人一人が調理に関わるようにさせる。 ・前時の肉の調理上の性質の学習を基に、調理の手順を示し調理させる。	・調理用具一式 ・野菜・肉切り方見本 ・一人1個のじゃがいも		○	○	○	【ICT活用】 ・デジタルコンテンツで肉じゃがの作り方を示す。
10	6 食生活のまとめ ・食生活について学んだことを振り返る。 ・実習した1品料理を基に、いろいろな料理を組み合わせる1食分の献立を考える。	・実習した1品料理を基に、自分でできるいろいろな料理を組み合わせる1食分の献立を考えさせ、実際に生活につなげるようにする。 ・2年生で「食生活」の学習に見通しを持たせる。			○	○		

技術・家庭科(家庭分野)第1学年 題材指導計画

題材名 『消費生活のしくみ, 商品の選択と購入』 D(1)ア		題材の目標 消費生活のしくみと自分の消費行動について関心を持ち, 中学生に関わる販売方法の特徴を理解する。				予定時数	実施時数	
						2		
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動,ICT活用,地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	1 家庭生活と消費 ・消費生活のしくみを知る。 2 商品の選択と購入 ・商品の価格の決め方と商品購入のプロセスを知る。	・生活に必要な物について話し合わせ, 物資やサービス, 支払いと収入の関係から消費生活のしくみについて理解させる。 ・実際の商品を見せ, 価格の決め方を理解させるとともに, 地産地消を意識した食生活につなげる。 ・自分の持ち物を点検させ, 必要な物とほしい物の違い, 商品購入のプロセスを理解させる。	・実際の野菜や果物等。	○			○	【地域の特性等】 ・宮城や仙台の食品の資料, 給食の食材の地産地消状況を示す。
2	・いろいろな販売方法と支払い方法を知る。 ・契約の意味を知り, 契約クイズを通して契約の取り消しの方法を知る。	・いろいろな販売方法の利点と問題点を話し合い, その特徴について理解させる。 ・契約クイズを通して具体的な契約場面をイメージさせ, 契約について理解させる。	・契約クイズ(悪質商法対策ゲームの裏)	○			○	

技術・家庭科(家庭分野)第1学年 題材指導計画

題材名 『よりよい消費生活のために』 D(1)アイ		題材の目標 自分や家族の消費について関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任、いろいろな販売方法の特徴とその対策について理解する。				予定時数	実施時数	
						4		
次(時)	主な学習活動	指導上の留意点	教材	評価				備考 【言語活動,ICT活用,地域の特性等】
				関	工	技	知	
1	1 消費生活のトラブルを防ごう ・悪質商法や消費生活におけるトラブルの例を知り、その解決策について話し合う。	・ビデオで事例を取り上げ、対策方法について、ロールプレイングを通して考えさせる。	・悪質商法・消費トラブルなどのビデオ	○			○	【ICT活用】 ・ビデオで悪質商法・消費者トラブルの事例を示す。 【言語活動】 ・業者の立場やだまされる消費者の心理などを考えさせ、解決策を話し合わせる。
2	2 消費者の権利と責任 ・事例の中での消費者の権利と責任について話し合う。	・消費者の権利と責任について、事例を通して具体的に考えさせる。 ・グリーン・コンシューマーについて理解させ、環境に配慮した消費行動を意識させる。			○		○	【言語活動】 ・事例に対する対処方法についての考えを交流させる。 【地域の特性】 ・教科書P.221の6図、仙台市教育委員会推奨の「仙台グリーン文具」例を確認する。
3	3 消費者を支える仕組み ・消費者を支える機関や法律をまとめる。 ・クーリング・オフのはがきを書く。	・中学生に関わりの深い販売方法によるトラブルを事例にし、クーリング・オフのはがきを書かせる。	・ワークシート ・消費生活センター発行の小冊子				○	【地域の特性】 ・仙台市消費生活センターの紹介。
4	○学習のまとめ ・悪質商法対策ゲームを行い、それぞれの事例に対する対策方法を確認する。 ・消費生活の学習、1学年の家庭科の学習を振り返る。	・ゲームを通してこれまで学習した消費者トラブルの対策を確認させ、実生活で気を付けていくようにさせる。 ・1年間学習してきたことを振り返らせ、「わたしの成長」ワークシートの記入を通して自分の成長を確認させる。	・悪質商法対策ゲーム ・「わたしの成長」のワークシート	○				